

平成30年度「幼児教育学科」教育システム総覧

教育目標

幼児教育学科では、建学の精神と教育理念に基づき、豊かな人間性と思いやりの心を持ち、社会の平和と幸福に寄与する自立した保育者の養成を教育目標とする。具体的には幼児教育学科が定める学修成果の目標達成を目指す。

学修成果の到達目標	ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
建学の精神と幼児教育学科の教育目標を具現化するために、次の項目を学修成果の到達目標とする。	次の6項目について、社会に適応し地域社会に貢献できるレベルに達したと認められる者に短期大学士(幼児教育学)の学位を授与する。
<p>1. 「尽心」：子どもを愛し、周囲の人々に寄り添い、支援する姿勢を身につける。具体的には、次の特性の涵養を目指す。</p> <p>①誠実性・真摯性 保育者として、子どもに誠意を持って関わり、一人ひとりの思いを受け止め、向き合うことができる。</p> <p>②多様性・協働性 保育者として、多様な価値観を受容し、様々な社会資源を活用しながら保育を行うことができる。</p>	<p>①誠実性・真摯性 保育者として、子どもに誠意を持って関わるができる。</p> <p>②多様性・協働性 保育者として、多様な価値観を受容し、同僚・保護者と保育を行うことができる。</p>
<p>2. 「創造」：保育者としての専門的知識・技能を修得する。具体的には、次の特性の涵養を目指す。</p> <p>③知識・技能 保育者として求められる知識や技能を修得し、子ども一人ひとりの可能性を引き出す保育を展開することができる。</p> <p>④思考力・判断力・表現力・創造力 保育者として十分な子ども理解に基づき、自ら考え、状況判断を行い、保育への思いを表現し、創造的に子どもと関わるができる。</p>	<p>③知識・技能 保育者として求められる知識や技能を修得することができる。</p> <p>④思考力・判断力・表現力・創造力 保育者として自ら考え、状況判断を行い、保育への思いを表現し、創造的に子どもと関わるができる。</p>
<p>3. 「実践」：自立した社会人として、必要な職業倫理を持ち、責任ある行動ができる。具体的には、次の特性の涵養を目指す。</p> <p>⑤主体性・自立性・実行力 保育者として、主体的に保育を計画し、自立した保育実践を行うとともに、日々の保育に対する自己評価を積み重ね、専門性の向上に努めることができる。</p> <p>⑥就業力・貢献力 保育者として保育職の意義を自覚し、積極的に地域社会と交流し、子育て支援の推進と充実に貢献することができる。</p>	<p>⑤主体性・自立性・実行力 保育者として、主体的に保育を計画し、自立した保育実践を行うことができる。</p> <p>⑥就業力・貢献力 保育者として保育職の意義を理解し、地域の子育て支援に貢献することができる。</p>
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）	アドミッション・ポリシー（入学受け入れの方針）
<p>幼児教育学科の教育目標と学修成果の到達目標および学位授与の方針を達成するために、次の領域を教育課程編成の方針として教育を実施する。</p> <p>1. 「教科に関する科目」：保育の5領域を学ぶ上での基礎的素養を養成する科目で構成している。</p> <p>2. 「保育職の意義」：保育者の在り方・職業倫理を考える力を養う科目で構成している。</p> <p>3. 「保育の基礎理論」：教育・心理・福祉の基礎理論を学ぶとともに、自らの保育観を見つめ直す科目で構成している。</p> <p>4. 「教育・保育課程及び指導法」：子ども理解に基づいた保育計画の立案・実践・自己評価を行う上での基礎力を養う科目で構成している。</p> <p>5. 「ゼミ」：主体的・自立的に学びを深め、自らの保育実践に応用できる科目として構成している。</p> <p>6. 「学外実習」：真摯に子どもと関わる中で、保育者として求められる知識・技能を確認するとともに、多様な保育者との関わりの中で自らの保育観を見つめ直す科目として構成している。</p> <p>7. 「レクリエーション」：子ども・地域社会との交流を意識した活動を創作し、実践する素養を養う科目で構成している。</p> <p>授業運営と成績評価は、学則のおよび各授業科目のシラバスに従って実施する。</p> <p>各科目と学修成果との関連および系統的な科目構成は、カリキュラム・マップ（リスト型、ツリー型）に示す。</p>	<p>幼児教育学科の教育目標と学修成果の到達目標および学位授与の方針を達成するために、次の項目を入学受け入れの方針とする。</p> <p>1. 保育者として誠実な人柄と人間力を身につけるために、子どもや保護者を思いやる心を持ち、協働にむけた努力を惜しまない者。</p> <p>2. 保育者としての高度な専門性と創造力を身につけるための基礎学力と素養があり、保育について学ぶ姿勢を持ち続けることができる者。</p> <p>3. 保育者として地域社会に貢献する実践力を身につける努力を惜しまない者。その他の事項については、全学の入学受け入れの方針に示す。</p>

